

○議長（森 弘秋君） 1 番 古川元規君。

○1 番（古川元規君） 古川元規です。質問に先立ちまして、令和元年12月の一般質問でSDGsの推進について触れさせていただきましたが、現在議長をはじめまして、議員の中でもSDGsバッジをつけた方も増えてこれ、大変うれしく思っております。

本日は偶然、国際女性デーだからというわけではございませんが、先般のハラスメントの問題、その対応も含めまして、今後もSDGsに沿った形での持続的な発展が可能な、そんな舟橋村を構築していければというふうに思っております。

また、古越村長におかれましては、1月の就任以降、大雪への対応、またコロナ禍におけるワクチン接種に向けた対応など、慣れない業務に奔走されていることかと思いますが、そのことに対して敬意を表させていただきますとともに、所信で目指されるような舟橋村の創造に向けて邁進していただきたいと心より念願を致しまして、一般質問のほうに移らせていただきます。

去る1月27日に地方創生特別委員会より提出されました意見書が物議を醸しておりました。意見書の内容につきましては、委員会のメンバーでもある私も大いに賛同するものでございますが、報道に触れた方の中には、議会側がこれまでの子育て支援に重点を置く地方創生政策に反対していると勘違いをされている向きもあるようでございます。少なくとも私自身はそのようなつもりは毛頭ございませんし、恐らく議員の中にもそのような方はおられないのではないかというふうに思っております。

その中でも大きな問題となってきたのは、平成27年からの総合戦略に沿っての5年間の政策が、多額の予算を注ぎ込まれたにもかかわらず、その成果が明確に見えていないのではないかということでした。

5年間で40世帯の増加を目指すとする計画を大きく超える世帯の増加は、そもそも計画からずれているという点では、諸手を挙げて成功と呼べるものではないのではないかというふうに思います。事実、その影響で急遽保育園を増築することとなり、いまだに混乱を招いています。また、その人口増が、これまでに多額の予算を注ぎ込んだ事業とどのように結びついているのかが不明瞭であります。

もちろん、人口減が止まらない他の多くの市町村と比べれば、これはぜいたくな悩みと言えるかもしれませんが、その事業の何がよかったのか、また何が悪かったのか。その検証ができないまま新しい総合戦略を立て、今後の5年間を歩んでいくということに非常に危機感を感じております。

孫子の兵法にも「彼を知り、おのれを知れば、百戦あやうからず」と申しますが、これではその言葉の後に続く、孫子が危惧する「おのれを知らざれば、戦うごとに必ず破る」という状態に陥りかねません。

限りある予算を有効に活用していくためには、事業計画の段階から、その事業が目指す中間目標としてのKPIを具体的に示すとともに、その目標の達成率をどのように検証するのかをあらかじめ定めておく必要があります。そうして初めて、事業後にその事業を検証することができます。

この一般質問の通告とともに、全員協議会の事業説明時に使用できるようなフォーマットのたたき台を提出させていただきました。慣れないうちは、もちろん大変と感じられるかと思いますが、一方では、説明を受けるたびに、この事業の目的、ゴール、検証方法などについて問う手間、また答える手間も省けますし、検証時にも基本となる指針となりますので、ぜひこれを使いやすいモデルに改良していただき、今後は計画段階から検証まで含めてご提案をいただければというふうに思います。

新しいことに取り組むのは大変勇気の要ることであるというふうに思いますが、この改革こそが、今後の舟橋村が開かれた幸せな村となるための一丁目一番地であると私は確信をしております。ぜひとも本提案について取り入れるか、その是非について当局のお考えをお聞かせいただきたいというふうに思います。

2点目です。

去年は舟橋村を巻き込んだ大きな選挙が2つありました。1つ目は富山県知事選挙、そしてもう一つは舟橋村長選挙でございます。私は共に多選の弊害を訴えまして、新人候補を応援させていただき、うれしいことに共に応援された候補がご当選を果たされました。

しかし、この選挙、2つともですが、これまでの現職が決定的に悪かったというふうに思っているわけではありません。どんなにすぐれた人物でも、権力を持った役職を継続するということは、癒着など、そのような問題がなくても、無意識のうちに周囲の村度を生んでしまうのではないかというふうに思っております。

なので、これは私自身も含めまして、政治家というものは常に後継者を育成していくそのような意識が必要であり、そのためには、まずは村民の政治、経済、そのようなものへの関心を高め、意欲ある方々を掘り起こしていく必要があるというふうに思っております。

しかし、議員各位の支持基盤を見ても、それぞれの基盤の中からそのような人物をもれなく選出するという事はなかなか難しいという現状であり、これが議員の成り手不足、また首長の成り手不足にもつながっているのかなというふうに思います。村長選挙に関してはなおのことであり、勇気を持って出馬をされた古越村長自身が恐らくよく理解をされていることかというふうに思います。副村長制度も現状ない。このような現状から言えば、今後は特に村長になろうと思うことのハードルが高まっているのではないかというふうに思います。

そこで、私から提案させていただきたいのは、議員候補や首長候補を生み出すような学びやの開設です。便宜上、仮名としてこれを「舟橋政経塾」と名づけたいと思います。

この舟橋政経塾を開設することのメリットは、大きく6つあります。1つ、村民の政治への知識と関心を高め、村政に参画する人を増やす。2つ、村民に生涯学習の機会を与え、村民としての付加価値を高める。3つ、塾生同士の横のつながりを強くすることで、地区や世代を超えた絆が生まれ、住民同士の共助の体制を強化できる。4つ、舟橋村から優秀な人材を輩出し、村の内外においての活躍を促進する。5つ、成り手不足の議員や首長の候補者を創出する。6つ、塾生内で熟成される意見を村政に反映させることで、斬新で有用な政策が実行される。

取り急ぎこれら6つの大きなメリットが得られると考えられますし、この有機的なつながりが、村長も掲げております「チーム“ふなはし”」としてのさらなる相乗効果をもたらすことも十分に考えられます。

共助とは、子育ての助け合いだけではなく、さきの大雪のような災害時の助け合いなど様々な局面で必要となるものです。急激な人口増加で、新旧でいまだ分かれる村民意識を、若い世代を中心に未来に向けてまとめる横のつながりを創出していくことは、今後の舟橋村の発展にとって大きな財産となると思います。

以上、舟橋政経塾はあくまで仮の案ではございますが、このような政治、経済について学び、村民同士の横のつながりをつくる場を設けることについての村長のお考えをお聞かせください。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（森 弘秋君） 生活環境課長 吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君） 1番古川議員のK P I並びに検証方法についてのご質問にお答えいたします。

初めに、平成27年10月策定の本村総合戦略についてであります。

ご存じのとおり、地方創生に関する計画は、急速な少子高齢化の進展に的確に対応して、日本全体や特に地方の人口減少に歯止めをかけることを目的としており、人口ビジョンと総合戦略で構成されます。

人口ビジョンとは、地域の人口の現状分析と今後の予測をした上でその将来展望を示すものであり、村人口ビジョンでは、それらを踏まえ、人口の総数を維持することではなく、将来にわたって人口構造を維持することを目標とし、そのために必要となる年度ごとの転入数と出生率を目標として掲げています。また、総合戦略とは、この人口ビジョンに掲げる計画目標達成に向け、優先的に取り組むべき効果の高い施策を取りまとめた計画であります。

本村の第1期人口ビジョンに掲げる2060年の目標は、人口3,155人、合計特殊出生率2.07であり、この数値がKGI（重要目標達成指数）となります。また、この最終目標達成に向け、5年ごとに事業評価目標を設定しているのがKPI（重要業績評価指数）であり、本村人口ビジョンでは、平成28年度から令和元年度までの5か年間に40世帯の転入と合計特殊出生率1.50となります。

一方、本村の第1期総合戦略では、人口ビジョンのKPI達成に向け、子育て世代の共感と関わる楽しさをつくることで、子育て世代の安心感を醸成する子育て共助のまちづくりを進めてまいりました。

具体的には、子育て支援センター、オレンジパーク、子育て支援アプリを活用したイベントを通じて、子育て世代がつながるきっかけを提供するソフト事業に加え、公園、保育園、子育て支援賃貸住宅で構成する子育てモデルエリアを整備することで、子育て世代に選ばれるまちづくりを進めてまいりました。

ご指摘いただきました事業検証とは、子育て共助のまちづくりが転入と出生につながっているか否かであり、言い換えれば、子育て支援センター、オレンジパークの取組や子育て支援アプリが転入と出生にどのように影響を与えたのかを評価することです。

事業評価につきましては、産、学、官、金並びに富山財務事務所や日本政策金融公庫等の外部組織で構成する舟橋村創生プロジェクト総合推進会議で実施いたしております。

本事業の5年間の成果といたしましては、昨年の12月の定例会におきまして、子育て

て世代のつながる安心感と転入の因果モデルにより、転入と出生目標を達成したことであると考えております。

また、この事業を実施するに当たり、国の地方創生推進交付金を充当いたしました。本交付金事業は、子育て世代のつながる安心感が転入と出生につながるという仮説に対し、どのような安心感が転入につながるのか。その安心感をどのように醸成するのか。公園でコミュニティをつくる新しい公園運営マニュアルをどのようにつくるのか。住んだ後の安心感を商品とする子育て賃貸住宅をどのようにつくるかなど、5年間の調査研究費用として国に採択を受け、実施してきたものでございます。

ご指摘のとおり、地方創生推進交付金は、これまでに取り組んだことのない事業を進めることから、専門性の高い事業者と契約するなど多額の金額を投じたことは事実であり、また当初予定していた計画どおりには進まず、何度も計画の見直しをしております。

しかし、それは、毎年の事業検証を着実にを行い、成果と課題の洗い出しから新たな事業計画づくりというPDCAを繰り返してきたからであります。

また、本村の事業は、内閣官房、国土交通省、スポーツ庁、厚生労働省やUR都市機構などの本村の取組を視察いただいている方々からは、事業推進に向けた仮説づくりやその検証方法等に評価を受けていることもご理解いただきたく思います。

しかし、議員ご指摘のとおり、本村の取組が住民の方に理解いただけていないとの意見があることも事実でありますので、ご提案をいただいた検証シートを十分に参考にさせていただきながら、分かりやすい検証シートづくりを進めてまいりますことを申し上げます。答弁といたします。

○議長（森 弘秋君） 村長 古越邦男君。

○村長（古越邦男君） 古川議員さんの舟橋政経塾の開設についてのご質問にお答えをさせていただきます。

ご指摘のとおり、議員の成り手不足は全国的に大きな問題となっております。特に人口が少ない町村議会においては深刻化しております。

原因としては、人口減少や高齢化問題など地域課題に対する関心の薄さと議員報酬の少なさと働き方の制約、そして出馬の際には応援してくれる地域の仲間やつながりが必要であるものの、近年では地域のつながりが希薄になっている現状から、関心があっても出づらい方もいらっしゃる環境であること等が挙げられると思います。

これまで舟橋村では、文化祭の文化講演会において、経済アナリストである森永卓郎氏やニュースキャスターの辛坊治郎氏を講師として招き、村民が政治や経済について関心を持つきっかけをつくってまいりました。

また、議会におかれましては、開かれた議会を目指し、議会だよりの発行や本議会のインターネット中継等を進められた結果、昨年行われました県知事選挙におきましては、投票率が県内でもトップとなる71.62%を記録し、村民の政治への関心の高まりを感じているところであります。

また、村議会議員報酬につきましても、平成31年4月から月額5万円の引上げを行うなど、議員の成り手不足解消に努めているところであります。

議員にご提案いただきました案は大変すばらしいものでございますが、現時点で、自治体が主催する議員の担い手不足解消のための塾の開催は困難であると思っておりますが、まちづくりに参画する住民を増やすことや地域住民のつながりをつくることは大変重要であると思っております。

これまでは、子育て世代のつながりによる安心感の醸成を目指した子育て共助のまちづくりの推進や、退職世代が地域への関わり方を見つけるためのケアウイル勉強会、民生委員協力員懇談会の開催等、住民同士のつながるきっかけを提供してまいりましたが、十分であるとは思っておりません。

議員ご指摘のとおり、本村の人口の半数以上は転入いただいた方であり、新旧住民の融和は大きな課題であると思っておりますので、引き続き子育て世代やエイジレス世代を対象とする事業を継続すると同時に、政治、経済に限らず、新旧の住民の方々が村に関心を持ち、共にまちづくりに参画していただけるための新たなきっかけづくりも今後提供していきたいと思っております。

具体的には、住民運動会、そしてふなはしまつりなど多くの村民に参加いただいております行事や社会教育で行っております各種教室等においても、もっとつながりやふるさと舟橋村を意識した要素を盛り込むことなどを今後対応してまいることを申し上げます、答弁とさせていただきます。

○議長（森 弘秋君） 古川元規君。

○1番（古川元規君） 今ほどは、丁寧なご答弁をありがとうございました。

再質問というより、意見だけ述べさせていただきます。

まず、1番目についてなんですけど、今後参考にしていただくということで大変ありがた

たいんですが、恐らくそうすると資料の量が大変増えてくるということになるかと思
います。

さきに私からもご提案させていただきました議会資料の電子化なども考慮に入れな
がら、ぜひ取り組んでいってほしいなというふうに思います。

また、2点目の舟橋政経塾についてですが、いろいろな活動をしておられるというこ
とは確かなんですが、どれも結構単発で終わるものが多いのかなというふうに思ってお
ります。

また、選挙活動の中で、いろいろな村民のつながりだったり、熱い思いだったりを私
は感じることができました。

やっぱり単発で終わるものではなく、つながりをつくっていく。そのような組織であ
ったり仕組みをつくっていただきたいなというふうに思いますので、ぜひご検討
のほうをよろしく願いいたします。

ありがとうございます。